

平成 26 年度第 4 回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

平成 27 年 3 月 27 日（金） 15時00分～16 時 45 分

2 開催場所

岡崎市役所東庁舎 2 階大会議室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（18 名）

伊豆原	浩二	委員	(愛知工業大学 客員教授)
松本	幸正	委員	(名城大学 教授)
酒井田	幸成	委員	(名古屋鉄道(株) 東岡崎幹事駅長)
安達	雄彦	委員	(愛知環状鉄道(株) 運輸部管理課 課長)
加藤	直樹	委員	(名鉄バス(株) 運輸部部長)
			※加藤 紀幸 運輸計画課 主任 代理出席
鋤柄	徹	委員	(名鉄東部交通(株) 業務部長)
河口	恒徳	委員	(愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長)
古田	寛	委員	((公社)愛知県バス協会 専務理事)
			※富山 純史 事務局長 代理出席
大久保	彰	委員	(愛知県交通運輸産業労働組合協議会 議長)
			※野中 寿文 幹事 代理出席
前山	敏昭	委員	(岡崎商工会議所 交通部会長)
神尾	明幸	委員	(岡崎市総代会連絡協議会 会長)
伊藤	久幸	委員	(岡崎市老人クラブ連合会 会長)
加賀	時男	委員	(岡崎市障がい者福祉団体連合会 会長)
牧野	公一	委員	(額田地域生活交通協議会)
山下	隆道	委員	(国土交通省中部運輸局企画観光部交通企画課 課長)
			※白木 広治 課長補佐 代理出席
後藤	英丸	委員	(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)
古橋	昭	委員	(愛知県地域振興部交通対策課 主幹)
			※尾崎 弘幸 課長補佐 代理出席
岩瀬	敏三	委員	(岡崎市 都市整備部長)

(2) 欠席委員（４名）

- 酒井 英二 委員（岡崎市六ツ美商工会 会長）
狩谷 伸一 委員（愛知県西三河建設事務所維持管理課 課長）
伊藤 光 委員（愛知県警察岡崎警察署交通課 課長）
中安 正晃 委員（岡崎市 副市長）

4 関係議題審議のために出席した地域内交通運行委託事業者の代表者等氏名
豊栄交通(株) 境 政義 氏

*中根 英夫 バス部長 代理出席

5 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

福澤 直樹（交通政策室長）、水上 順司（主任主査）、平松 隆（主任専門員）、尾崎 孝幸（主査）、成瀬 泰樹（主事）

6 傍聴者等

1名

7 会長挨拶

（内容省略）

8 議題

(1) 矢作地域・まちなかアンケートの集計・分析結果について

矢作地域・まちなかアンケートの集計・分析結果について、資料1により説明した。

<以下、各委員の意見等>

副座長： 今回、矢作地区、まちなか、まちバス利用者のアンケートを実施し、問題の実態を捉えたということで良い機会だと思います。

その中で、矢作地区の住民は、バスを必要としていない実態が分かったと思いますが、十分にバスを知らないという事実も分かった。実際バスが運行していることを、いかに地域住民に伝えていくかが重要だと思います。バスを必要としないというのであれば、次のステップに移ることになると思います。

まちバスに関しては、今後の運行のあり方で「賑わいの創出」が最下位ですが、買い物目的でまちバスに乗ってまちなかに来ていても、結果

として町の賑わいに繋がっていると考えられます。

東西線は他の路線バスとルートが重なっているのも、効率を図るとか、運賃体系の話とか、あるいは南北線の東岡崎駅の乗り入れ等々ということもあります。

今後、国の法律が変わり、岡崎市でも地域公共交通網形成計画を策定しようとするなかで、そこで求められているのが、まちづくりとの連携です。岡崎市は、東岡崎駅の再開発も進めており、岡崎駅の周辺の区画整理も進んできており、かなり町の姿も変わってくる。それらとの連携が求められます。

これからは、自治体が主体となって公共交通の全体の絵を描いて、そして民間交通事業者の人たちもできるだけ行政の人たちの書いた絵を実現するために協力する、つまり、公共交通について地域団体、交通事業者、行政等、全体で考えましょうという時代になって来ています。

まずは第一段階として、個別で検討して課題を出していただいているかと思いますが、更に、まちづくりや他の交通手段とネットワークとしてのまちバスや矢作地区のバス等がどうあるべきかの視点での検討も必要があるのではないかと思います。

事務局： バス路線単体で、考えていくものではないと思いますので、来年度委員の皆様にご協議をいただくこととなります地域公共交通網形成計画では、リバーフロント計画を始めとする康生地区のまちづくり、JR 岡崎駅周辺の市街地の新たな都市基盤づくりなどと合わせて、全体のバス路線を考えていく必要があると考えております。

委員： アンケートのなかで、路線バスが走っているのに知らないと回答したかたがいるとのことですが、バスの運行を改めてお知らせしたとしても、バスを利用しないのが明確になったと思います。

資料1-3のダイヤを見ますと、利用者側に立った運行実態なのかと疑問に思います。1日に3本ぐらいしかない路線もありますし多いところで1日1時間に1本ぐらいで朝7時に出たらお昼過ぎまでない、このあたりも問題ではないでしょうか。

事務局： 資料1-4の右の図で説明いたしましたが、路線の前にお住まいのかたでも、バスの路線がないと回答されたかたもおられ、バスに関心がないことを非常に危惧しております。そのため、バスの利用をしていただく為に、まずバス路線や運行ダイヤなどの周知を行っていきたくと思

います。

バスに皆様が乗らなければ、便数が少し減っていくということも視野に入れて、市としても地域のかたと一緒に周知や路線の見直しを考えていきたいと思えます。

委員： 利用者側目線で、路線だとかダイヤを設定する必要があると思えます。

事務局： 必要な時間帯、行きたいところだとか、皆さんの意見をすべて満たすような運行は難しいと思えますが、地域のかたと相談しながら極力地域のかたとにとって利用しやすいバス運行を考えていきたいと思えます。

路線バスの方法もありますし、その他の運行の方法もあるかと思えますので、様々な方法を地域のかたと協議したいと思えます。

委員： 朝は7時ごろの時間帯の便がありますが、夜の時間帯の7時や8時の便が1つありません。矢作地区のアンケートを見てもわかるように、時間帯にバスがないというのが6.2%、それから運行本数が少ないというのがあります。もう少し利便性を図った運行が、出来ないものかなと思えますけど、この運行時間を設定したのは、どういう所からとられているかご説明いただきたい。

事務局： 各総代と相談をしながら、ご意見を頂いた経緯があります。

ただ、今回のアンケートで分かりましたが、昔と比べてバスの運行本数自体は増やしているのですが、バスの運行自体に関心がないかたに、バスについてアンケートしても、良いか悪いか答えられなかったと反省しています。今後は、具体的な路線変更を検討したうえで周知を行い、その後もう一度地域の皆さんのお声をお聞きしたいと思えます。

バスを増便することと、実際にバスを利用されることは少し違うと思えますので、利用が見込まれる路線は、使いやすいバスを運行するために地域の意見を掴み取っていかうと思えます。

副座長： 利用者側に立ったダイヤ設定になってないからバスに乗れない、だから関心を持ってもらえない、知らないということではないでしょうか。資料1 - 3にある例えば54番55番56番の路線は市民病院への通院や通勤・通学用途に限定され、日中の買い物などには使いにくい路線となっています。このため知らない、分からないといわれるのだと思えます。重要なのは、このバスの時刻表、ダイヤとルートが、矢作の住民のかた

に相応しいものになっているのかを把握することだと思います。

まずは周知していただくと共に、本当にこれでいいのかどうか、幸い平成 23 年度のパーソントリップのデータもありますので、バス利用者が何時に何の目的でどこに行っているのかを見れば、そのダイヤが相応しいか分かると思います。

座 長： 今回のアンケートでは、どこへ行きたいかということも聞いています。

利用者の目線で周知するには、バス停がどこにあるか分かる地図をお渡しするだけではなく、地域の皆さんが目的地へ向かには、何時にここへ向かうバスがあるというようなお出かけマップを作ると良いと思います。

矢作の皆さんにその情報をお伝えする。それでもバス利用が少ないのであれば、何か考えなければなりません。バスに乗っていただく努力もせず、本数を減らす等の話をするのは、利用者側の目線に立っていないと思います。地域の皆さんに提供するサービスとは何であるかを議論していただいた後でなければ、効率化を図っていくことを納得していただけない気がします。このような努力を行う必要があると思いますが、事務局に全部お願いするのではなく、地元の皆さんにご協力をお願いすることもお考えいただきたいと思います。

委 員： 矢作地区は安城市と隣合わせで、矢作地区から安城市の更生病院に通っているかたが随分多いと聞いています。市民病院へ行くよりも更生病院に行く路線があってもいいかと思います。安城市と上手く協力すればバスの本数を減らせるかもしれません。そのようなこともご検討していただけるといいかと感じます。

座 長： 宇頭駅の南側にあんくるバス東部線の宇頭駅南バス停ができました。JR 安城駅まで行く東部線ですが、宇頭駅の乗客がバスに乗って、更生病院まで行くかまでは分かりませんが、東部線の宇頭駅南での乗降者数が大変多いと聞いております。

必ずしも宇頭だけの話ではなくて、岡崎安城線も同じように、周辺の市町等の連携をとることは大切なことだと思います。本日頂いたご意見とご指摘、分析していただいた結果を含めて、来年度に向かって私達が努力するところを見つけていくことが大切かと思います。

(2) 岡崎市乗合タクシー等「下山地区線」運行計画の変更及び平成 27 年度

生活交通ネットワーク計画の変更について

岡崎市乗合タクシー等「下山地区線」運行計画の変更及び平成 27 年度生活交通ネットワーク計画の変更について、資料 2 により説明した。

<以下、各委員の意見等>

副座長： 平成 26 年 10 月に改正したばかりですが、地元の方々のニーズを反映するというので、すぐに対応することは良いことだと思います。そして、地元の方々に時刻表等を決めていただいて、更に、利用促進も行うとのことなので期待したいと思います。

この地区のかたがどこで買い物をされているのか、教えてください。

事務局： JA 形埜支店に、A コープというスーパーがありまして、そちらで買い物をされているかと思います。

副座長： もともとは現行ダイヤで月火金曜日の第 4 便で 10 時 1 分に JA 形埜支店前に到着し、買い物をし、10 時 50 分北部診療所発で帰って来ると、ちょうど午前中に行き帰って来られたのですが、新しい火金曜日のダイヤになると難しいと感じました。JA 形埜支店が 11 時 15 分着かなく、その後は診療所 11 時 45 分発なので 30 分かからず買い物しないといけないのは、すごく不便になるように思えますが大丈夫ですか。

事務局： このダイヤはご地元の協議会とも協議して設定いたしました。買い物に関しましては、直接確認はしてはいませんが、何度も地域のかたと確認し、バス事業者さんとも確認して決めさせていただいたダイヤとなっております。

副座長： 地域の方々の声が反映されていれば心配ないと思います。

座長： 事務局から説明がありましたように、このネットワーク計画に記載する費用については、まだ確定した数値ではなく申請時にもう少し精査する必要があるかと思います。

もし修正が必要な場合は、調整を座長、副座長と事務局にご一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員： 異議なし。

座長： 皆様のご承認を頂いたということで進めさせていただきます。

- (3) 公共交通マップの改訂について
公共交通マップの改訂について、資料3により説明した。

<以下、各委員の意見等>

座長： 地域公共交通網形成計画の話が出ましたが、広域性を確保しようとする
ことも考えていきますと次回製作の際には周辺の他市のバス路線も
記載した方が良いでしょう。

事務局： 周辺の他市のバス路線については事務局でも検討し、他市運行バスの
交通事業者の問合せ先を記載するスペースが設けられず、市内にバス
停が設置されている他市コミュニティバスのみ対象として掲載するこ
ととし、豊田市の水源東バスと安城市のあんくるバスの2路線を今回
のマップに反映させております。

委員： 発行部数が限られているため全戸配布は無理かと思いますが、例えば、
ホームページに掲載する計画はありますか。

事務局： ホームページに載せる予定です。

委員： 議題1で周知が不足していることが出ていましたので、ホームページ
に載せていることを回覧板等で全市民が知るような策がとれば良い
かと思います。

座長： 良いご意見もいただいておりますので、そのあたりも含めて皆さん
に情報提供をお願いしたいと思います。

副座長： 隣接市である安城市や豊田市などにも公共交通マップを置いてもら
うと良いでしょう。また、安城市や豊田市等のマップも是非岡崎市に
置いてもらうと良いでしょう。

事務局： 近隣市に送付いたします。

委員： バス路線の問題ですが、特に集合団地では最近が高齢者や特に団塊の世代のかたが大変増えております。このかたたちは現在自家用車を使っているかたが大半ですが、5年から10年ぐらい先には車の免許を返納するかたが多くなると思います。将来に向けてバス路線を見直して、特に高齢者のかたたちがまとまって住んでいるところで、現在バスが走っていないところにバス路線を確保して欲しいと思います。そのような場所が市内全般的に見渡すとあちこちにあるのではないかと思いますので1つ提案させていただきました。

事務局： 市内に限なくバスを走らせるというのは、限られた財源の中では難しい状況だとは思いますが、地域のかたが必要として、乗っていただけるということで、私共と一緒に協義をしていただければ、コミュニティ交通などバス交通についてお話しをさせていただきたいと思っております。

座長： 団塊の世代の皆さんの免許の保有率は男性の場合95%です。女性でも8割近いと思いますが、この世代のかたがこれから高齢化を迎えます。

しかし、車をやめてすぐにバスに乗れるかというとは実は乗らない。ここをどうするか是非お考えいただきたいと思います。バスを使った経験が全くないのに、車をやめてバスに乗ることは無理なので、今から何らかの動機づけをし、バスを利用する機会を創ることが必要です。

そういう対応をこれから3年後5年後に向けて、今から少しずつ行っていないと対応できないと思います。

老人クラブの中でこのような話題を議論してもらう時に、他市の事例でマイ時刻表を作るという取組があります。

バス路線マップと時刻表をお渡しして、自分で決めた目的地へ行くためには何時何分のバスにどこで乗って行き、どのルートに乗って帰ってくるかを、地図上でバスに乗った気分になって考えていただくものです。バスは経験がないと乗れないと思いますので、このような活動、乗り方教室など、取組んでおられるところが結構あります。

このように高齢者のかたや老人クラブの皆さんと5年後ではなくて、今から少しずつ取り組んでいければ、結果的に3年後5年後には皆さんが使いやすくなるのだと思います。これから高齢者の皆さんに使っていただける様な仕組みをお考えいただけると良いと思います。

- (4) 平成 27 年度交通政策会議事業計画（案）及び予算（案）について
平成年度交通政策会議事業計画（案）及び予算（案）について、資料 4
により説明した。

<以下、各委員の意見等>

委員：公共交通に親しむ日の開催という事ですが、矢作地域のアンケート結果でバスを知らないという人が多いという事が分かっていますので、こういう場を使って PR をしていただきたいと思います。

先ほどのお出かけマップなど、簡単な手書きの物で良いと思いますので、それも合わせて配っていただくと良いのかなと思います。

事務局：皆様のいろいろな知恵をお借りしながら、市民の皆様に興味を持っていただける様なことを取り組んでいきたいと思います。

座長：昨年もこういった事業を行いました。交通事業者や皆様にお手数をおかけしますが、是非ご協力のほどよろしくお願いします。

事業計画及び予算(案)について、賛成の方の挙手をお願いします。

座長：全員の賛成をいただきましたのでご承認という事で進めさせていただきます。

9 連絡事項

次回会議を 6 月中旬～下旬頃に予定

— 会 議 終 了 —